

認定医試験出題問題とそのポイント

——平成7年度既出試験問題より——

〔症 例 A〕

氏 名：C. N.

年 齢：15歳

月 経 歴：未だ月経を認めていない

主 訴：下腹部腫瘍および月に1回程度の下腹部痛

現 病 歴：5日前に下腹部痛があり小児科を受診し、
臍に達する下腹部腫瘍を指摘され、産婦
人科を紹介された。

初診時所見：身長154 cm，体重43.2 kg，血圧102/54
mmHg，皮膚粘膜に貧血所見はなく，腹
部には聴打診上異常を認めない。乳房お
よび恥毛の発育は正常。下腹部に臍に達
する腫瘍を認めるが，強い圧痛は認めら
れなかった。外尿道口は正常。陰前庭部
に腔口を認めることは出来なかった。
直腸診では，腫瘍の下端と陰前庭部の間には約1 cmの距離が存在した。

検 査 所 見：	WBC	6,200/ μ l	TP	7.1 g/dl
	RBC	412×10^3 / μ l	BUN	9 mg/dl
	Hb	12.1 g/dl	クレアチニン	0.5 mg/dl
	Ht	35.8%	CRP	(—)
	Plt	28.5×10^4 / μ l		
	血糖	90 mg/dl		

IVP 所 見：写真1参照

MRI 所 見：写真2参照

外陰部所見：写真3参照



(写真1) IVP所見



(写真2) MRI所見(T2強調画像)



(写真3) 外陰部所見

〔症 例 A〕

ポイント：本症例は月経血排出障害により月経モリミナや無月経を訴える代表的な疾患である処女膜閉鎖症である。腔留血腫，子宮留血腫，卵巢留血腫を形成する可能性がある。

研修医の必須知識として以下に示す項目を期待したい。

- 1) 内性器，外性器の発生，処女膜閉鎖，腔閉鎖と Rokitansky-Küstner-Hauser 症候群（腔欠損）との鑑別
- 2) 主訴，現病歴，画像診断を総合して腔留血腫であり，処女膜閉鎖症や腔閉鎖症による月経血排出障害を疑うこと
- 3) 写真上では IVP で尿路系は正常であり，MRI（T2強調）では high intensity の大きな腫瘤の上に正常大の子宮が存在することを説明できること
- 4) 本疾患の治療法と将来の妊孕性が期待できるか否かを説明できること

EXERCISE 解答

14	(65) b	(66) c	(67) e	(68) b	(69) e
15	(70) a	(71) d	(72) d	(73) e	
16	(74) c	(75) d	(76) d	(77) e	(78) e
17	(79) d	(80) d	(81) b	(82) c	(83) b

研修コーナーに会員の皆様の声をお寄せ下さい。

「今月の研修テーマ」に対する質問や，テーマの要望，執筆者の推薦など何でも結構です。

また推薦図書や書評，エッセイなども歓迎いたします。下記の宛先にお送り下さい。

宛先：〒162 東京都新宿区市ヶ谷砂土原町1-1
保健会館別館内
日本産科婦人科学会
研修コーナー編集 係